

# 河村美術館

～天才画家青木繁の作品を所蔵～

河村美術館は、弱冠28年8ヶ月で夭折した九州が生んだ天才画家青木繁の作品19点を所蔵しているのを軸とし、内外画家（主に明治生まれ）の作品約100点の他、西洋陶磁器、ガラス器等約300点、東洋陶磁器等約300点とバランスのとれた多彩な収蔵を特徴としています。

永年に亘り蒐集した河村龍夫<sup>※1</sup>の業績を讃え、生地唐津市に佐賀県認可第1号の財団法人美術館として1990年10月開館しました。

※1 河村 龍夫 1893年（明治26年）唐津市十人町に生まれる。

父満太郎 母こくの長男。兄に嘉一郎（初代唐津市長）がいる。

河村家は代々、坊主町に住む御典医の家柄であったが、のち、後継者なきため神社奉行系に勤め、城内二の丸に居を移した。

龍夫翁は、幼児より才気縦横にして、煥発の概があり、唐津小学校から唐津中学、第四高等学校、東京帝国大学経済学部に進んだ。卒業後、合資会社住友伸鋼所入社。後年、住友金属工業株式会社と社名変更。昭和17年満州住友金属株式会社常務取締役役に就任。昭和21年終戦により帰国。

帰国後財閥解体に遭い、昭和22年住友資本の入りぬぐグタ鋼管株式会社社長に就任、昭和35年同社が山本興業株式会社と合併して住金物産株式会社となるや、社長を辞して取締役相談役となる。

社長辞任の退職金を老人福祉法の制定公布を待って昭和39年唐津市老人福祉センター建設基金として唐津市に寄付した。

老いても、なお書見を忘れず、文筆をよくす。

青木繁を好み、最初の作品「ランプ」最後の作品「夕焼けの海」をはじめ計16点を収集した。

1976年（昭和51）没。

## ■河村美術館

住 所／〒847-0015 佐賀県唐津市北城内6-5

電 話／（0955）73-2868

メール／info@kawamura.or.jp

分 野 文化

地 域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



河村美術館 外観



ランプ 青木繁

（河村美術館HPより）

◎引用・参考文献（出典）

◆川村美術館HP

◎エピソード・伝承・うんちく など

## ■青木繁（1882～1911）

弱冠28歳8ヶ月で夭折した天才画家。近代日本美術史の上でもっとも著名な洋画家の1人。明治15年福岡県久留米市生まれ。東京美術学校西洋画科に在学中の36年、第1回白馬賞を受賞する。明治40年父危篤のために帰郷するが、家族と衝突し翌年家を出て放浪生活に入る。九州地方を転々としながら作画を続け、明治44年福岡の病院で生涯を終える。短い生涯を終える前年の約2カ月間、唐津市内に滞在した。西の浜の旅館に投宿して描いたのが「夕焼けの海」青木の体はこのころ、すでに肺結核にむしばまれており、最後の作品のひとつとなった。絶筆といわれる「朝日」も唐津の海を描いたものである。

※河村龍夫氏のご子息である河村晴生氏が、現在河村美術館理事長を務めています。

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)